

第30回東京国際コイン・コンヴェンション 特別販売品 TICC

享保小判金

徳川幕府中期、8代将軍吉宗の時代の小判です。

鑄造された期間は享保を挟んだ正徳後期から元文前期までですが、鑄造期間の大半が享保期のため享保小判金と呼ばれます。

金品位の良い徳川幕府最初の小判「慶長小判」を手本として発行されました。

美品以上のものに日本貨幣協同組合推奨プレートをお付けしております。

※ 80% 縮小図



※写真はイメージです。

美品
日本貨幣協同組合鑑定書付
480,000円 (税込)

天保小判金

天保小判金は徳川幕府後半の天保8年(1837年)から鑄造が始まりました。

この天保小判金からローラーによる延金が行われ、以前のものに比べ平面性および均質性が向上しました。

見た目にも美しい仕上がりの小判金といえます。

美品以上のものに日本貨幣協同組合推奨プレートをお付けしております。

※ 80% 縮小図



※写真はイメージです。

美品
日本貨幣協同組合鑑定書付
180,000円 (税込)

万延小判金

徳川幕府末期、万延元年(1860年)から鑄造が始まりました。

徳川幕府最後の小判で、大政奉還の慶応3年(1867年)まで製造されました。

美品以上のものに日本貨幣協同組合推奨プレートをお付けしております。



※写真はイメージです。

美品 日本貨幣協同組合鑑定書付
95,000円 (税込)

二分判金と一分判金は小判金と同じく徳川時代の基軸通貨です。

二分判金は1/2両、一分判金は1/4両の貨幣価値となります。安政二分判金は徳川幕府後期の安政3年6月2日(1856年)から、元文一分判金は徳川幕府中期の元文元年(1736年)から鑄造が始まりました。

発行枚数も多くお値段もお手頃ですので、これから収集をはじめようとお考えの方にはお薦めのアイテムです。

安政二分判金



※写真はイメージです。

美品
15,000円 (税込)

元文一分判金



※写真はイメージです。

美品
15,000円 (税込)